

器械運動ワークショップ

側方倒立回転の道しるべ

器械運動の運動指導に役立つ

動感化指導の実践例を提示

側方倒立回転の類似動感形態

動感観察・交信による

道しるべ処方の実際

ワークショップ(2010.12.19 13~)

場所 日本大学100周年記念講堂

講師 栗原英昭

協力 高橋正典他児童数名

マット運動「側方倒立回転」の道しるべ ～器械運動の動感化指導法～

通常、ワークショップとは参加型或いは体験型講習の意味で用いられます。その意味では参加者が側方倒立回転の動感化指導法の実習に沿って実際に体験してみるのが本来の趣旨と思われます。今回の大会では近隣の体操クラブに通う児童（指導者：高橋正典先生）にお手伝いを願って、動感化指導の実験を体験してもらうことになりました。

*

ここで取り上げる「側方倒立回転」のわざは、割と早い段階で見よう見まねでできてしまうケースもありますが、全くやったことのない子どもやできない子どもに対峙した場合、どこから指導を手がけるかについては、意外と指導者間で認識の差があるようです。

動感化指導の組み立て方いわゆる道しるべ方式の指導は、以下のような考え方に基づいています。

*

道しるべ1 《スタート地点の確認および過去の動感の呼び覚まし》

自分の体（重）を逆さの状態を支える感覚や力がどの程度かなどの実施主体の基本的な動感条件をこの段階でチェックしておきます。

道しるべ2 《類似の動感を持つ課題の学習》

『道しるべ2』の段階では、ここでは側方倒立回転の学習に有効なよびわざ（運動アナログ）がどのくらい習得されているかをチェックします。これまでの段階で重要なことは、一つひとつの運動（わざ）が主題とする「わざ」（ここでは側方倒立回転）にどのような役割や意味を持つのかを理解させ、興味を失わせない工夫が必要です。

道しるべ3 《目標技の動感形態の形態化と修正》

次に習得したそれらの動感能力をもとに、わざの運動構造を認識した動感形態の指導を考えていくことになります。

道しるべ4 《発展した技への動感応用》

最後に取り上げる発展わざは目標わざの発展性を視野に入れたプログラムであり、実施に当たっては技術的ポイントを押さえた指導が必要になります。

一般的に、非日常的な動きを特性とする器械運動は体験したことのない指導者にとっては厄介であり敬遠したい種目であることは否めません。そこで、今回は子どもたちがなかでも気軽に取り組める「側方倒立回転」を取り上げ、指導の道しるべを作ってみました。

また、今回の指導法研究では、従来からある「車輪のように側方に回転する」という側方倒立回転のイメージが、このわざの運動構造に基づく指導法の決め手にはならないという課題を持って研究を進めていくことにします。